

岡山県自動車・同附属品製造業最低賃金専門部会資料

資料目次

意見要旨

- ①労働者側意見要旨
- ②使用者側意見要旨

「岡山県自動車・同附属品製造業最低賃金」の改正決定にかかる意見
「岡山県自動車・同附属品製造業最低賃金」の改正決定にかかる調査審議において、以下のとおり意見を述べます。

1 団体又は事業所の名称等

- ・三菱自動車工業労働組合 水島支部

2 岡山県における特定最低賃金について

- ・岡山県での自動車・同附属品製造業という業種において、水島に位置する三菱自動車工業を筆頭に、部品・物流の組織で構成されており、所謂、三菱自動車関係がベースとなっている業種であると受け止める。よって、三菱自動車の今後の動向と経営状況が大きく影響するものである。隣県では、マツダ自動車も存在し、同様の考えと思われる。一方、三菱自動車の車体工場が存在する愛知県・京都府においては、他の自動車メーカーも存在するため、中小・小規模事業所においても、さまざまなメーカーから生産依頼があるものとすれば、岡山県の特定とは考えが違うのかも知れない。そのような中であっても、岡山県の自動車産業はその価値を見出していく必要があると思っている。

3 2025 春季生活闘争を終えて、

- ・三菱自動車ふそう労連にて取りまとめている春闘の結果から、今回、特定最低賃金の必要について疎明資料として提出した。三菱自動車においては、賃金引き上げ額 17,500 円(4.96%)となっているが、労連加盟組織の賃金引き上げ額の平均は、10,004 円(3.3%)であり、消費者物価指数にも負けている状況にある。ここから、ティア2・3・4、また、組合の無い組織に至っては、これよりも引き上げ額は低いものと思慮。価格転嫁・適正取引は始まっているというものの、末端までの浸透は進んでいないと言わざるを得ないことも理解したうえで検討が必要である。

4 外的要素について

- ・自動車産業においては、米国との取引で関税の問題が大きく押し掛かっており、この影響は車体メーカーである三菱自動車はもとより、部品メーカーにおいても大きな打撃があること。今の三菱自動車の状況を理解する必要がある。

5 改正決定に関する意見

- ・自動車産業において人材の確保・流出防止が喫緊の課題となっていることは、岡山県においても同様であり、各組織においても顕著に表れている。また、入社してくる人材の質においても、さまざまな課題があると受け止めており、一例として、三菱自動車に来る人材派遣社員からも「こんな仕事で、この給与であればコンビニのバイトの方がマシ」と言われ、退社される方も後を絶たないのが現状。車体工場ですらそのような状況であり、部品メーカーにおいての苦労は想像を絶する。しかし、人材の流出原因は賃金だけでなく、モノづくり産業の魅力の低下が大きく起因していることも意識するべきである。岡山県において、自動車産業

は基幹産業とも言われており、この産業の魅力を向上させていくことは当然、生み出している付加価値、または仕事の質・内容に相応しい水準の特定最低賃金を確立・維持しなければならないと考える。それは、一足飛びではなく、企業ひいては岡山県を守る意味でも、中長期的にみた取り組みを進めるべきと考える。

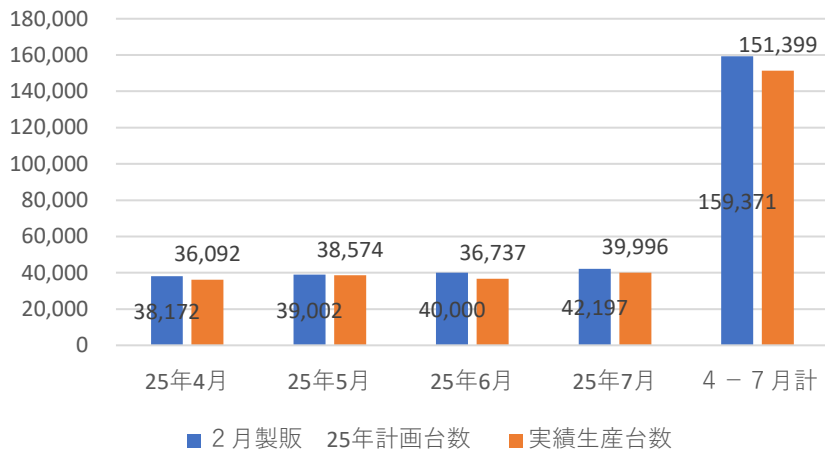
意見書

岡山口ボケアセンター株式会社

代表取締役 向谷 隆

部会名	自動車・同付属品製造業																																																										
過年度最低賃金	令和元年度 921円 令和2年度 921円 令和3年度 936円 令和4年 956円 令和5年度 991円 令和6年度 1039円																																																										
業界の状況	<p>【生産の状況】</p> <div data-bbox="236 551 1449 1350"> <h3>MMC 水島製作所の生産状況</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>生産台数 (千台)</th> <th>内軽四 (千台)</th> <th>軽四比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2017年(実績)</td><td>242</td><td>173</td><td>71%</td></tr> <tr><td>2018年(実績)</td><td>309</td><td>197</td><td>64%</td></tr> <tr><td>2019年(実績)</td><td>332</td><td>217</td><td>65%</td></tr> <tr><td>2020年(実績)</td><td>253</td><td>193</td><td>76%</td></tr> <tr><td>2021年(実績)</td><td>207</td><td>146</td><td>71%</td></tr> <tr><td>2022年(実績)</td><td>237</td><td>184</td><td>78%</td></tr> <tr><td>2023年(実績)</td><td>268</td><td>212</td><td>79%</td></tr> <tr><td>2024年(実績)</td><td>260</td><td>198</td><td>76%</td></tr> <tr><td>2025年(計画)</td><td>264</td><td>213</td><td>81%</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="236 1361 1114 1939"> <h3>水島製作所 4～7月の状況</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>2月製販 25年計画台数</th> <th>実績生産台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>25年4月</td><td>19,412</td><td>19,595</td></tr> <tr><td>25年5月</td><td>19,669</td><td>19,970</td></tr> <tr><td>25年6月</td><td>19,669</td><td>19,688</td></tr> <tr><td>25年7月</td><td>19,456</td><td>18,564</td></tr> <tr><td>4～7月計</td><td>78,206</td><td>77,817</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1129 1384 1497 1727"> <p>水島製作所の生産状況 2024年は、近年ピーク2019年の80%であり、仕事量の確保が来ていません。 今年度4～7月までの水島製作所の実績ではほぼ計画通りとなっています。</p> </div>	年	生産台数 (千台)	内軽四 (千台)	軽四比率 (%)	2017年(実績)	242	173	71%	2018年(実績)	309	197	64%	2019年(実績)	332	217	65%	2020年(実績)	253	193	76%	2021年(実績)	207	146	71%	2022年(実績)	237	184	78%	2023年(実績)	268	212	79%	2024年(実績)	260	198	76%	2025年(計画)	264	213	81%	期間	2月製販 25年計画台数	実績生産台数	25年4月	19,412	19,595	25年5月	19,669	19,970	25年6月	19,669	19,688	25年7月	19,456	18,564	4～7月計	78,206	77,817
年	生産台数 (千台)	内軽四 (千台)	軽四比率 (%)																																																								
2017年(実績)	242	173	71%																																																								
2018年(実績)	309	197	64%																																																								
2019年(実績)	332	217	65%																																																								
2020年(実績)	253	193	76%																																																								
2021年(実績)	207	146	71%																																																								
2022年(実績)	237	184	78%																																																								
2023年(実績)	268	212	79%																																																								
2024年(実績)	260	198	76%																																																								
2025年(計画)	264	213	81%																																																								
期間	2月製販 25年計画台数	実績生産台数																																																									
25年4月	19,412	19,595																																																									
25年5月	19,669	19,970																																																									
25年6月	19,669	19,688																																																									
25年7月	19,456	18,564																																																									
4～7月計	78,206	77,817																																																									

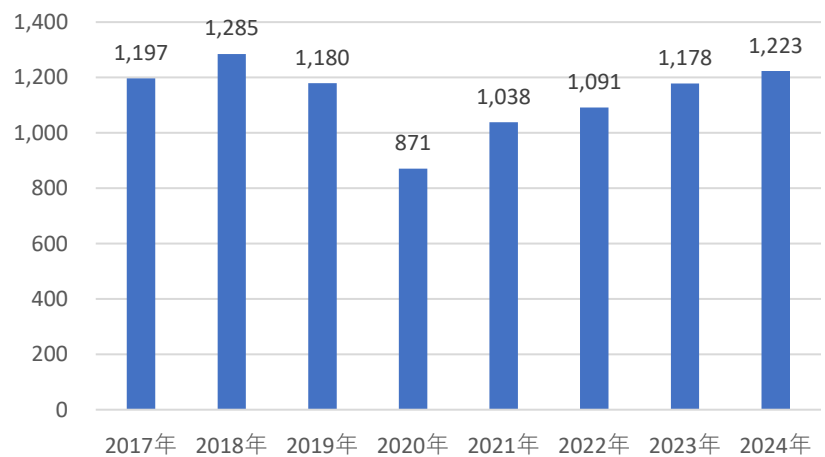
三菱自動車全体 25年4～7月



三菱自動車全体としては4～7月の実績は計画に対して95%で推移しています。

米国の自動車関税の変更による影響は今後実現して参ります。影響度は未定です。

売上高



【経営数値資料】 出典 ウイングバレイより入手

ウイングバレイ11社の売上高は2020年以降、2024年までは回復傾向が続いていました。

従業員数 外国籍就業者



雇用人数は、2019年の3941名に対し、2025年は3364名と15%減少しています。反面、外国人国籍従業員は2022年137名が2025年には338名になるなど増加傾向にあります。

【最低賃金についての使用者側よりの意見】

ウイングバレイ11社は売上規模、納入先、財務体質も違い、2025年度の春闘においても対応が大きく異なりました。この度の県最低賃金の対前年+65円に習い、本部会が昨年の1039円からプラス65円を決定した場合、人件費の原資について逼迫する中小企業が増加します。人財を引き寄せる、魅力のある自動車産業でありたいと考え、各社SDG'sや働き方改革に努めていますが、体力を超えた労務費の増加は財務体質を弱め、働く場所の消失にもつながりかねません。この度の最低賃金の上昇トレンドは、国の政策を反映したものと理解すべきで、本部会では慎重な判断を求めます。